

生活科の実践



函館市

生活科

1年

園児との交流が成長への気付きや工夫を促す！

おともだちになろうよ

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます



「こうえんであそぼう」の活動の中で幼稚園に立ち寄るところから始めます。

交流を重ねることで、次第にかかわりが深まるようにしました。

幼稚園の先生や園児からのビデオレターを活用し、自他への気付きが一層深まりました。

「こうえんであそぼう」の活動中に見つけた近くの幼稚園を繰り返し訪問する中で園児との交流を深め、今度は「あきとあそぼう」で自分たちが作った遊びコーナーに幼稚園児たちを招待するというものです。相手意識をもたせることで自分の成長への気付きや活動への工夫を促します。

学習活動の流れ（20時間）

ようちえんにしゅっぱつだ（3）

- 幼稚園に行って遊ぼう（1回目の交流）

もういちどいきたいな（4）

- 2回目の交流に向けての話し合いと準備
- 幼稚園に行って遊ぼう（2回目の交流）

がっこうにおいてよ（12）

- 「あきとあそぼう」の活動で自分たちが作った遊びコーナーを生かして、1年生を迎える計画を立て、準備をする
- 1年生同士が園児の役になり、各コーナーの練習をする（中間交流）
- 幼稚園児を自分たちの遊びコーナーに招待する

たのしかったね（1）

- 活動全体を振り返る

近隣の幼稚園との交流と、秋を楽しむ单元を関連させた学習活動です。子どもたちは、園児と繰り返し交流をすることで、自分の成長に気付いたり、相手意識をもって遊びや接し方を工夫したりします。



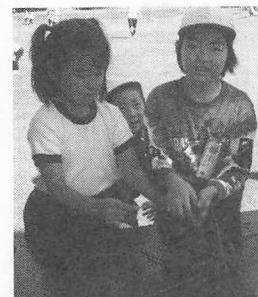
どうですか？

教材・活動の **Point!**



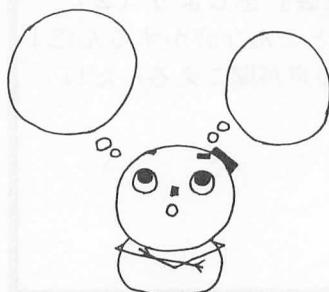
1. 園児との交流で自分の成長に気付く

入学して半年立った1年生。入学前に比べ、いろいろな面で成長しています。子ども自身はその成長をあまり自覚していません。年下である幼稚園児との交流が、自分の成長を気付かせるきっかけとなります。



2. 相手意識が遊びや接し方の工夫を生む

幼稚園児のことを思い浮かべながら迎える準備をしたり、接し方を考えたりする中で、子どもたちは年下の相手に対する工夫を考えます。異年齢との交流が相手意識を生み、活動に広がりが生まれます。



3. 単元をつなげることで思いや願いが連続する
「こうえんであそぼう」や「あきとあそぼう」の单元から本单元へと活動を発展させることによって、子供たちの思考に連続性をもたせました。年間指導計画を見直し、单元と单元が発展的につながるよう工夫することによって、单元の導入がスムーズになり、子どもの思いや願いが途切れることなく広がっていきました。